

輸入粗飼料の情勢

全 酪 連
購 買 生 産 指 導 部
購 買 推 進 課

北米コンテナ船情勢

西海岸港湾における使役者団体であるPMAと労働者組合ILWUとの労使交渉は、現在も続いています。7月末に医療給付の維持に関して暫定合意がされました。医療給付については重要な協議事項のひとつとされており、交渉は一步前進した形になりますが、最大の争点と言われる「ターミナルの自動化」については、言及はない状況です。

過去数年から続く海運の混乱が米国内のインフレの一因と言われていることから、今回の労使交渉はバイデン政権も介入し交渉が進められています。8～9月中には新協約に妥結するのではと一部で期待されていますが、今後米国での年末商戦に向けた、輸入のピークシーズンが始まるため、交渉の経過には注視が必要です。

一方、西海岸全域ではコンテナターミナルから鉄道貨物の搬出が滞りはじめ、ピークシーズンを前に港湾ターミナルの混雑が懸念され始めています。物価上昇に伴い、衣料品や家電、家具などの販売が鈍化し、各小売業者の内陸倉庫の在庫が過剰になっているという報道もあり、港湾内鉄道ターミナルでも内陸向けの鉄道貨物が通常時の3倍以上滞留し、鉄道への積み替えに通常以上の時間を要しています。港湾ターミナルの混雑はコンテナ本船の荷役作業効率の低下につながるため、早期の解消が望まれています。

ビートパルプ

【米国】

主産地であるミシガン州では、順調に生育が進んでおり例年並みの収量が見込まれています。一方でその他の産地では、春先の冷涼な気候と断続的な降雨の影響で播種作業が遅れ、前年比5%程度、生産量が減少する見込みとなっています。22年産の収穫作業はスケジュールの早い地域で8月中下旬頃から開始される予定です。

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻以降、天然ガスの価格が上昇していることから、22年産は乾燥させずに出荷が可能な内需向けのウェットパルプでの出荷割合が増加し、乾燥作業が必要なビートパルプペレットの生産量が工場によって減少する見込みです。

アルファルファ

ワシントン州

主産地であるコロンビアベースンでは現在2番刈の収穫作業が行われています。天候にも恵まれ順調に収穫作業は進んでおり、8月中旬には全域で2番刈の収穫を終える見込みです。これまで収穫された2番刈の品質は色目が良いものの、産地では夏季に

入り気温が上昇し、成分値の低下や乾燥気味な品質が散見されています。

産地では例年4番刈まで収穫されますが、22年産は1番刈の収穫作業が大幅に遅れたことで、3番刈で収穫を終える圃場が多く発生する可能性があります。このため輸出業者及び内需において年間の必要数量を確保するため、上級品を中心に引き続き積極的な買付が行われており、上級品の産地相場は1番刈以上に値上がりしており、引き続き高値となっています。

オレゴン州

オレゴン州南部クラマスフォールズでは1番刈の収穫作業が終了し、7月下旬から2番刈の収穫作業が開始されています。

22年産の1番刈は例年よりもおよそ2週間遅い6月下旬から開始されました。作況については一部の地域で突発的な降雨があったため、雨当たり品も発生しましたが、主要な地域では収穫期に安定した天候が続いたため、例年同様、高品質な上級品が生産されています。

同州中部クリスマスバレーにおいても1番刈の収穫が終了しています。収穫期に散発的に降雨があったため一部で雨当たり品が発生したものの、多くの圃場で降雨を避け収穫できたため、産地では上級品中心に生産されています。なお2番刈の収穫は8月上旬から開始される見込みです。

産地相場は、ワシントン州の1番刈の作況が芳しくなかったことから、上級品を求める内需の引き合いが強く、他産地と同様に前年に比べ大きく上昇しています。



(22年産1番刈オレゴン産アルファルファ 7月下旬撮影)

カリフォルニア州

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは現在6番刈が収穫中です。産地では夏季に入り連日40℃を超える日が続いており、成分値は下がっており中級品から下級品の発生となっています。産地相場は中級品以下の品質であっても、旱魃の影響で粗飼料の不足するアリゾナなど隣接州からの購買もあり、引き続き堅調に推移しています。

同州北部のディクソン地区では現在3番刈の収穫作業が終盤に差し掛かっています。

産地は酪農地帯から地理的に近いこともあり、上級品中心に旺盛に売買されており春先以降、高値のまま相場は推移しています。

農業用水の使用制限はディクソン地区でも行われており、例年であれば、産地一帯でカリフォルニア米を中心とする稲作の生産が見られますが、水不足から生産者は稲作の生産を諦め、休耕地となる圃場も散見されています。

米国産チモシー

主産地であるワシントン州コロンビアベースン及び、エレンズバーグでは1番刈の収穫作業が終了しています。22年産は冷涼な気候による生育の遅れと6月に入り降雨が続いたため、両産地ともに例年よりも収穫開始が遅れました。収穫期に安定した天候が続いたため、上級品中心の発生となり、中級品、低級品の発生は限定的となっています。産地では馬糧向けを主とする上級品が相場を牽引し、他の地域に比べ旱魃状況は改善したものの中級品、下級品は粗飼料在庫が不足する内需が積極的に買付を行っています。

22年産は前年同様、1番刈収穫後、換金性の優れる穀物及び豆類に転作した圃場が多く見られ、輸出業者によると1番刈収穫後に30%以上の圃場がチモシーから転作されている模様です。なお2番刈の収穫は8月上旬から開始される見込みです。



(22年産ワシントン産1番刈チモシー 7月下旬撮影)

スーダングラス

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、1番刈の収穫が終盤を迎えており、圃場によっては2番刈の収穫が開始されています。これまでに収穫されたスーダングラスは上級品及び中級品の発生が中心となりましたが、色抜け品の発生は例年よりも少ない印象です。

現在産地では、連日40℃を超える高温に加え、モンスーンシーズンに入り湿度も発生しているため、茶葉の混入が目立ち始め、今後は中級品から下級品中心の発生になる見込みです。また、農業用水利用の制限により例年より2番刈を行う圃場が少なく、22年産の総生産量は昨年並みか若干減少することが予想されています。

早魃の影響で産地周辺のカリフォルニア州だけでなく粗飼料在庫が不足する、アリゾナ州、ネバダ州、テキサス州など州外の肥育生産者も下級品スーダンを旺盛に買付ており、産地相場を押し上げています。



(22年産スーダングラス 8月上旬撮影)

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、3番刈の収穫が終盤を迎えており、圃場によっては4番刈の収穫が開始されています。

産地では連日40℃と高温が続くなか生育は加速し、茎質も堅くなりやすくなっています。また多少草質の硬さがあっても安価な蛋白源の繊維という位置づけで、草質の柔らかい上級品と変わらない価格帯で近隣酪農家向けに取引されていることから、生産者は例年よりも単収増加を意識し収穫しており、22年産は21年産に比べ全般的に硬さが見られる印象です。

例年クレイングラスは5番刈から6番刈まで収穫されますが、各生産者、冬野菜の栽培に備え節水が必要となっているため、22年産は圃場によっては4番刈で生産を終える見込みとなっており、生産量不足が懸念となっています。

バミューダ

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーではバミューダハイは3番刈の収穫が開始されています。直近の気温の上昇と湿度の発生により、品質は春先に比べ低下傾向にあります。一方で、早魃に直面するテキサス州からバミューダハイに対する引き合いが非常に強く、産地ではクレイングラスよりも高値で取引されています。

ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

主産地であるオレゴン州ウィラメットバレーでは、7月下旬よりペレニアルライグラスストローのベーリング作業が開始されています。大きな降雨もなく、品質は例年並みとなる見込みで、8月下旬頃から22年産の出荷が順次開始される予定です。

カナダ産チモシー

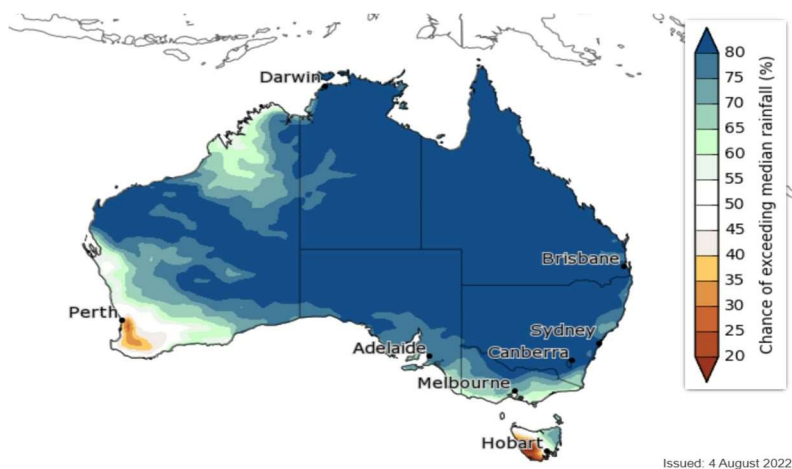
主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区では、7月下旬から収穫が開始されました。7月に雹を含む雷雨が発生し、強風や雨により圃場での倒伏が散見されたものの、無事収穫されたものは、概ね問題ない品質となっています。22年産の収穫量は、生育期にあった適度な降雨の影響で例年と同程度か若干増加することが予想されています。

同州南部レスブリッジ地区では6月に雨天が続き、1番刈の収穫は例年より1週間から10日程度遅い、7月中旬から収穫が開始されました。現在1番刈の収穫は終盤を迎えていますが、収穫期は天候に恵まれ、順調に収穫できたことから中級品から上級品が中心になると予想されています。

豪州産オーツハイ

7月は全豪的にまとまった降雨があり、22年産は順調に生育しています。7月上旬には東豪州ニューサウスウェールズ州で、およそ50万人に避難勧告が出されるほどの大規模な洪水が発生しました。また同時期に西豪州でも大雨と洪水が発生しましたが、この大雨による22年産の作況への影響はない見込みです。

今後の豪州の天候は、収穫期に向け全豪的に降雨量の増加が予測されています。下図は豪州の気象庁による8月から10月の降水量予測ですが、西豪州の一部の地域を除き生産地域全体で平年以上の降水量になることが予想されています。



出典：The Australian Bureau of Meteorology より

豪州コンテナ船情勢

7月上旬に東豪州と西豪州の各地であった大雨により、コンテナ本船の寄港が遅れ、スケジュールに遅延が発生しています。加えて豪州航路の船腹は満船が続いており、徐々に船腹の確保が難しい状況になっています。このため多くの船社で海上運賃の大幅な値上げを行っており、一部の輸出業者は今後、上昇した運賃の品代への転嫁を示唆しています。

以上